

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	森林病虫害対策事業	会計	一般会計	事業No.	423	施策順No.	11-029
		事業種別	政策・その他	予算科目	6-2-2-14-1		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	林務課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	松(松林)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		被害区域面積(ha)		2714	2739	2739	2739	
	意図	松林を保全する						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	駆除数量(m3)	260	260	260	260	260	200	A
	薬剤散布面積(ha)	24.83	24.83	24.83	24.58	24.58	24.58	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	目標を十分に達成でき、森林病虫害(松くい虫)の発生を抑制することに繋がった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	松林健全化推進事業 松くい虫被害が市内一円に拡散する中、地区内重点地域・公園等を中心に、伐採駆除(破碎・燻煙)・地上薬剤散布・空中薬剤散布・薬剤樹幹注入を実施する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	被害木の伐倒駆除及び薬剤による消毒 1 伐倒駆除くん蒸 2 破碎 3 空中散布 4 地上散布 5 樹幹注入 6 特別伐倒駆除	1 伐倒駆除くん蒸数量 破碎数量 2 空中散布本数 3 地上散布面積 4 樹幹注入本数 5 特別伐倒駆除 6 事務費賃金	1 200m3 60m3 2 120本 3 24.58ha 4 66本 5 一式 6 一式
23年度実施計画	被害木の伐倒駆除及び薬剤による消毒 1 伐倒駆除くん蒸 2 破碎 3 空中散布 4 地上散布 5 樹幹注入 6 特別伐倒駆除	1 伐倒駆除くん蒸数量 破碎数量 2 空中散布本数 3 地上散布面積 4 樹幹注入本数 5 特別伐倒駆除 6 事務費賃金	1 170m3 30m3 2 120本 3 24.58ha 4 30本 5 一式 6 一式

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (県)松林健全化推進事業補助金(伐倒6/10、地上散布3/4、空中散布国6/10、樹幹注入 国3/4) (そ)松くい虫防除対策事業分担金68千円
	国庫支出金					
	県支出金		5,337	5,337	6,065	
	起債					
	その他		68	68	86	
一般財源		12,967	12,038	12,844		
計(A)		18,372	17,443	18,995		
正規職員所要時間			300			
臨時職員等所要時間			40			
人件費計(B)			1,116			
トータルコスト A+B			18,559			

4 事業に対する市民や議会の意見

市民から被害木の伐倒等の要請が頻繁にある

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムツ指標	林業生産額(億円)
				経済自立度 %
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	松くい虫被害の拡大を、最小限に抑えることができた。		
	後期に向けた課題	徐々に拡大を見せていることから、引き続き実施をしていく。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	放置すれば、被害木が増加する一方であり、事業費が拡大するため地道に実施していくことが重要である。		
	後期に向けた課題	県費補助が、年々徐々に削減されているため事業量が減少してしまう。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	計画的な事業の実施		
	後期に向けた課題	計画的な事業に実施		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市が実施しないと民間では行わないため、適切である。		
	後期に向けた課題	引き続き、市が主体になって続けていく。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	天龍峡公園や他の公園を中心とした薬剤散布を行うことで、松枯れの被害を抑えることができています。		
	後期に向けた課題	天龍峡を含めた公園などの松を守ることが大切である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	被害は徐々に広がっているが、公園を中心とした松は消毒を実施することで守られている。		
	後期に向けた課題	県費補助が毎年減らされているのが一番の課題である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------